

学生運動（全共闘）の激しい時代にコミンテルンに洗脳されたまま、昭和四十九年に大学を卒業し、小さな鉄鋼関係の会社に就職しました。極左の脳で、現実の社会の中に放り込まれ、在職三年間の間に人身事故を含め三度の交通事故を起こしました。精神的なバランスを極端に崩し、廃人に近い状態でした。

そのタイミングで、たまたま「税理士」という資格があり、努力次第で十分生活できると聞き、渡りに船と逃げるように会社を辞めて、資格取得に挑みました。

新聞の広告欄に「大栄経理学院」という会社が、社員募集をしているという記事を読み、履歴書を持って面接に行きました。そこで出会ったのが「高瀬建一」という税理士資格を持つ創業者でした。高瀬先生は、大学を中退し、完全独学で、五科目を一括合格したという、その業界では超人的なカリスマでした。

高瀬先生が「山川君、税理士試験は、集中した勉強だとか、中身の濃い勉強だとか言うけれども、それは嘘だ。大切なのは、合格に必要な絶対時間を守り切る事だ。」と教えて下さいました。この業界のことを全く知らない私には、当に天の声でした。その絶対時間だけを守り切り、ようやく昭和五十九年の試験に合格し、翌六十年二月二十一日に登録開業させて頂きました。

しかし、顧客なし、経験なし、資金なしの無い無い尽しの中でスタートし、運転資金として借りた千八百万円も、見る見る底を尽き、資金繰りにも困窮する有様でした。

そんな時、友人の税理士から、これからは「資産税」の時代だ。顧客の無い若手税理士が収益を得るには、これだと飛び付きました。幸い、住宅メーカー・生保・損保・金融機関も「FP」という部門に力を入れ始めていました。これは運が向いて来たぞ、これなら業界でトップを走れるぞと喜びました。ただ資産税は、やればやる程、奥が深く、顧客一人一人の期待や、保有する財産、家族構成や考え方が違います。事務所の全社員が、同じ力量を身に付けるには時間が足りません。しかも仕事が単発です。継続性がなく、社長と心を通わすこともありません。

そもそも、中小企業の社長の経営に役立ちたい、共に汗を流し、資金繰りや、社員教育や、社長の悩みに真正面から取り組みたいという創業の原点と全く違うではないか！金儲けは、手段であって、目的ではないかと、もう一人の私が叫ぶのです。新左翼の運動をして、一番敵対的な立場であるはずの経営者の姿を間近で見て、何が正しいのか、悶々とした中で、幸い読書だけは続けて来て、得た答えが、「会計人は、中小企業の社長の役に立ち、日本を良くすること」ではなかったのか、と遠回りしながら、ようやく創業の原点に戻れました。

振り返って、つくづく人との出会い、ご縁の有難さを感じています。あの時、あの人に出会ったから今がある。何と有難いことか。左翼から右翼へ人生が大転回しました。社長も苦難の道を通ってこられたと思います。だから気が合うはずです。

### 今月のポイント

朝の来ない夜はない。

必ず道は拓ける。

